

多様性と孤独・孤立：作業療法と 作業科学による公正の追求

作業療法や作業科学の分野では、社会やコミュニティの構造がどのように私たちの健康や作業に影響を与えるかについて、長年にわたり多くの議論が交わされてきました。しかし、具体的に我々が孤独や孤立の問題においてどのように社会に貢献できるかの模索は始まったばかりです。このシンポジウムでは、多様なアイデンティティと社会的課題が交差する現代において、これらの問題がもたらす影響に焦点を当て、新たな包摂的なアプローチを提案します。

私たち、高齢者の孤独・孤立問題に取り組む高島と、精神障害者の孤独・孤立問題に取り組む星野は、科学的根拠を基に、作業療法と作業科学が社会的公正と包摂をどのように推進できるかを模索する場を設けました。

このシンポジウムでは、5カ国から16名の専門家がスピーカーとして参加します。学術の枠を超えて、実践者、行政等の関係機関、そして一般市民と協働し、より公正で健康的な社会の構築に向けた具体的な方法を共に考える機会を提供します。あなたの参加が、この重要な議論に新たな視点をもたらし、理解を深める一助となることを心より期待しています。

日時

2024年11月4日(月・祝)
9:30 受付開始 / 9:50 開会

対面会場

北海道大学オープンイノベーションハブ『エンレイソウ』
1階・メインラウンジ(募集定員:最大50名)

オンライン

Zoom(日本語の同時通訳あり)(募集定員:最大900名)

お申込み

<https://otos-international-symposium.peatix.com>
(2024年9月30日〆切)



参加費

無料

※交流会・ネットワーキングのみ有料
(4,000円:参加される場合は現地で現金にてお支払い)

基調講演

Dr. Gail Whiteford

(Emeritus Professor, Charles Sturt University, Australia)

セッション 1

エンパワメントとアドボカシー

Dr. Shu-Ping Chen (University of Alberta, Canada)

Dr. Risa Takashima (Hokkaido University, Japan)

Dr. Eric Asaba (Karolinska Institute, Sweden)



セッション 2

つながりを生むコミュニティデザイン

Dr. Barry Golding AM (Honorary Professor, Federation University, Australia)

Dr. Hiroki Okada (Hokkaido University, Japan)

Dr. Aiko Hoshino (Nagoya University, Japan)

セッション 3

作業的トランジションのナビゲート

Dr. Kim Walder (Griffith University, Australia)

Dr. Mari Sakaue (Sapporo Medical University, Japan)

Mr. Yosuke Suzuki (Tokyo Metropolitan University, Japan)

セッション 4

ソーシャルインクルージョンに向けた科学的根拠の構築

Dr. Terry Krupa (Queen's University, Canada)

Dr. Takako Chikenji (Hokkaido University, Japan)

Dr. Junichi Uemura (Nagoya University, Japan)

セッション 5

多様性と作業的公正

Mr. Niall Kirrane (National Gender Service, Ireland)

Mr. Takeshi Matsumoto (Nagoya University, Japan)

Dr. Ted Brown (Monash University, Australia)

※各講演者のタイトルは
<https://x.gd/qfeoe>



交流会・ネットワーキング(要申込)

共催

・「RISTEXシチズンサポートプロジェクト」

グループリーダー・高島理沙(北海道大学)

・「T-GEx 世界的課題を解決する知の开拓者育成プログラム」

フェロー・星野藍子(名古屋大学)

・「学術変革領域研究(A)当事者化行動科学(公募研究)

『性的少数者の保健医療者かもつ物語性:専門職性の発達における影響』
研究班



高島理沙



星野藍子